

古記録 文献目録 【記録体・記録語編】

2001.01.12 作成

2011.07.21 更新

著者	題名	所収誌 発行所	年	備考(再収書等)
武藤元信	記録文の特色	東洋学芸雑誌 338	1909	『武藤元信論文集』武藤元信遺著刊行会 1929
布施秀治	『古文書記録辞典 ア部』	私家版	1932	
松本愛重	記録に見えたる如泥の語に就いて	国学院雑誌 38-3	1932	
松本愛重	松容の語を説明して大日本史の誤りを弁ず	国学院雑誌 39-1	1933	
布施秀治	古文書記録に見えたる語辞の一般考察 上・下	帝国学士院紀事 2-1・2	1943	
杉崎重遠	記録用語私見 「時行」に就て	国文学研究 2	1950	
斎木一馬	記録語	日本歴史 31	1950	
松下貞三	記録体の性格 吾妻鏡を中心として	国語国文 20-9	1951	『漢語受容史の研究』和泉書院 1987
佐藤喜代治	平家物語と記録体の文章	文芸研究 15	1953	『日本文学史の研究』明治書院 1966
斎木一馬	国語史料としての古記録の研究 記録語の例解	国学院雑誌 55-2	1954	『古記録の研究』上 吉川弘文館 1989
高松雅雄	御堂関白記の実態 主に表記の面から見た	国語国文 31-9	1962	
築島裕	『平安時代の漢文訓読語につきての研究』	東京大学出版会	1963	
青木孝	吾妻鏡に見える謙讓の「令(シム)」	青山学院女子短期大学紀要 18	1964	
峰岸明	平安時代記録資料における「而」字の用法について 記録語研究の一方	国語学 62	1965	『平安時代古記録の国語学的研究』東京大学出版会 1986
佐藤喜代治	上代の記録体の文章における用字法	日本文化研究所研究報告 2	1966	
峰岸明	平安時代の助数詞に関する一考察(一)	東洋大学紀要文学部篇 20	1966	『平安時代古記録の国語学的研究』東京大学出版会 1986
峰岸明	平安時代の助数詞に関する一考察(二)	東洋大学紀要文学部篇 21	1967	『平安時代古記録の国語学的研究』東京大学出版会 1986
峰岸明	平安時代記録資料における疑問助字の用法について 「歟」字の用法を中心に	国語学 71	1967	『平安時代古記録の国語学的研究』東京大学出版会 1986
青木孝	吾妻鏡に見える「御(ギョ)」字の特殊用法 「たまふ(尊敬補助動詞)に当てたるもの	青山学院女子短期大学紀要 21	1967	
小山登久	「告諭」をめぐる 権記の文体	語文 27	1967	
斎木一馬	国語資料としての古記録の研究 近世初期記録語の例解	仏教史研究 3	1968	『古記録の研究』上 吉川弘文館 1989
伊地知鐵男	古記録用語特殊解(案)	『日本古文書学提要下』新生社	1969	
峰岸明	「秉燭に及びて」小考	『佐伯博士古稀記念国語学論集』表現社	1969	『平安時代古記録の国語学的研究』東京大学出版

				会 1986
青木孝	吾妻鏡構文上の一特質 述語の上に、助字「於(オ)」をつけて補足語を提示する型	青山学院女子短期大学紀要 23	1969	
築島裕	『平安時代語新論』	東京大学出版会	1969	
遠藤好英	連体詞「させる」の文章史的性格	月刊文法 2-2	1969	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
遠藤好英	平安時代の記録体の文章の性格試論 「殊」(ことなる)と「指」(させる)をめぐって	文芸研究 64	1970	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
斎木一馬	記録語の例解 国語辞典未採録の用字・用語	『高橋隆三先生喜寿記念論集 古記録の研究』続群書類従完成会	1970	『古記録の研究』上 吉川弘文館 1989
青木孝	吾妻鏡に多く用いられる「云々(うんぬん)」の訓(よみ)と用法について	青山学院女子短期大学紀要 24	1970	
佐藤武義	和製漢語の成立過程と展開 「をこ」から「尾籠」へ	文芸研究 65	1970	
佐藤喜代治	中世の漢語についての一考察	国語学 84	1971	
西崎亨	太平記と記録体の文章	国文学解釈と鑑賞 17-5	1971	
小山登久	公家日記に見える用字上の一問題 漢字一字とそれを含む同義語の漢字二字の場合	ノートルダム清心女子大学国文学科紀要 4	1971	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
小山登久	御堂関白記自筆本の用字について 和語の記し方を中心に	ノートルダム清心女子大学国文学科紀要 5	1972	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
峰岸明	「よもすがら」用字考 平安時代記録資料を対象として	国語と国文学 49-6	1972	『平安時代古記録の国語学的研究』東京大学出版会 1986
峰岸明	「ひそかに」用字考	文学論藻 47	1972	『平安時代古記録の国語学的研究』東京大学出版会 1986
前田富祺	古代の文体	『講座国語史』6 文体史・言語生活史 大修館書店	1972	
遠藤好英	平安時代の記録体の文章の性格 「別」を含む語彙をめぐって	日本文学ノート 7	1972	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
西田直敏	宸記に見える所謂「自敬表現」について 伏見天皇宸記・花園天皇宸記を中心に	国語国文研究 50	1972	
遠藤好英	記録体の文章における連体格の「別」 その読みと性格	国語学研究 12	1973	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
遠藤好英	連体詞「キハメタル」の文章史的性格	日本文学ノート 8	1973	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
小山登久	公家日記に見える「寂然」と「随形(かたにしたがふ)」について 記録語研究ノートから(1)	ノートルダム清心女子大学紀要(国文学科) 6	1973	

今泉淑夫	中世末公家日記における闕語について	国語と国文学 50-4	1973	
峰岸明	中古漢語考証稿(1) 「逐電」考	文学論藻 48	1973	『平安時代古記録の国語学的研究』東京大学出版会 1986
峰岸明	平安時代記録文献文体試論 用字研究からの試み	国語と国文学 51-4	1974	『平安時代古記録の国語学的研究』東京大学出版会 1986
斎木一馬	漢籍を出典とする記録語の若干について	『史学論集 対外関係と政治文化』2 吉川弘文館	1974	『古記録の研究』上 吉川弘文館 1989
西田直敏	天皇のことば 鎌倉時代の宸記・宸翰の「自敬表現」を中心に	藤女子大学国文学雑誌 16	1974	『「自敬表現」の歴史的研究』和泉書院 1995
小山登久	公家日記に見える「之」の字の用法について 平安時代の資料を対象に	語文 32	1974	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
小山登久	公家日記に見える「於」の字の用法について 平安時代の資料を対象に	ノートルダム清心女子大学紀要(国文学科)8	1975	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
遠藤好英	平安時代の記録語の性格 「夜前」をめぐる	国語学 100	1975	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
松下貞三	吾妻鏡における「令(シム)」の考察 漢文和化の道をたずねて	国語と国文学 52-5	1975	『漢語受容史の研究』和泉書院 1987
清水教子	『御堂関白記』に見られる程度副詞「極(メテ)」	国文学攷 67	1975	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
穂田定樹	漢文体の「致す」	親和国文 9	1975	『古記録資料の敬語の研究』清文堂 2008
遠藤好英	平安時代の記録体の文章の性格とその変遷 「別」字の用法を通じて	『佐藤喜代治教授退官記念 国語学論集』桜楓社	1976	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
貴志正造	『吾妻鏡』用語の手引 初めて読む人のために	『全訳吾妻鏡』月報 1 新人物往来社	1976	
貴志正造	『吾妻鏡』用語の手引(2) 初めて読む人のために	『全訳吾妻鏡』月報 2 新人物往来社	1976	
竹内理三	漢文史料訓読難	『全訳吾妻鏡』月報 2 新人物往来社	1976	
峰岸明	記録体	『岩波講座日本語』10 岩波書店	1977	『平安時代古記録の国語学的研究』東京大学出版会 1986
穂田定樹	小右記の待遇表現	国語国文 46-4	1977	『古記録資料の敬語の研究』清文堂 2008
小山登久	公家日記に見える仮定表現型式について 平安時代の資料を中心に	『論集日本文学・日本語』2 中古 角川書店	1977	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
遠藤好英	記録体における「夕方」の語彙の体系 『後二条師通記』の場合	国語と国文学 55-5	1978	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
小山登久	記録体の一考察 平安時代の公家日記類を中心に	愛媛国文研究 18	1978	

小山登久	公家日記に見える「所(処)」の字の用法について 平安時代の資料を対象に	ノートルダム清心女子大学紀要(国語・国文学編)2-1	1978	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
穂田定樹	御堂関白記・小右記の敬語・敬語表現(その一~十五)	岡山大学教育学部研究集録 48 ~ 69	1978 ~ 85	『古記録資料の敬語の研究』清文堂 2008
笠松宏至	中央の儀	月刊百科 202	1979	『法と言葉の中世史』平凡社 1984
貫志正造	吾妻鏡用語注解	『全訳吾妻鏡』別巻 新人物往来社	1979	
斎木一馬	記録語と国語辞書	国学院雑誌 80-11	1979	
清水教子	『小右記』に見られる「しはらく」	中国短期大学紀要 10	1979	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
佐藤喜代治	『角川小辞典 日本の漢語 その源流と変遷』	角川書店	1979	
佐藤喜代治	「法苑珠林」と記録体	文芸研究 90	1979	
穂田定樹	『御堂関白記』の引用形式	大谷女子大國文 9	1979	
遠藤好英	記録体における「朝」の語彙 『後二条師通記』の場合	国語学研究 19	1979	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
浅野敏彦	和製漢語「焼亡」について	春日丘論叢 23	1979	
小山登久	殿暦の仮名表記に関する一問題	ノートルダム清心女子大学紀要(国語国文学編)4-1	1980	
遠藤好英	記録体における時の表現 『後二条師通記』の「昨日以前」・「昨夜」の意	『国語語彙史の研究』1 和泉書院	1980	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
中山緑朗	「雪恥」付驢尾「井蛙」小考	『近代語研究』6 武蔵野書院	1980	『平安・鎌倉時代古記録の語彙』東宛社 1995
小山登久	記録語文における漢字表記語の解読方法について 『自筆本御堂関白記』を例として	『馬淵和夫博士退官記念国語学論集』大修館書店	1981	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
小川栄一	記録体における形式名詞「由」	日本語と日本文学 1 筑波大学	1981	
小山登久	見せかけの漢語	ノートルダム清心女子大学紀要(国語・国文学編)5-1	1981	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
堀畑正臣	平安時代の記録体漢文における「令(シム)」について 『貞信公記』を中心として	国語国文研究と資料 9	1981	
中山緑朗	記録体の語彙 『小右記』の朝・夕方・夜の語彙	学苑 493	1981	『平安・鎌倉時代古記録の語彙』東宛社 1995
遠藤好英	記録体における日中に関する時の語彙 『後二条師通記』の場合	『佐藤茂教授退官記念 論集国語学』桜楓社	1981	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
遠藤好英	記録・文書の語彙	『講座日本語の語彙 4 中世の語彙』明治書院	1981	
峰岸明	記録の語彙	『講座日本語の語彙 3 古代の語彙』明	1982	

		治書院		
鈴木恵	原因・理由を表す「間」の成立	国語学 128	1982	
佐藤喜代治	和製漢語の歴史	『講座日本語学 4 語彙史』明治書院	1992	『漢語漢字の研究』明治書院 1998
小山登久	変体漢文の文体史	『講座日本語学 7 文体史 1』明治書院	1982	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
小山登久	「牢籠」の語について	『小島憲之博士古稀 記念論文集 古典 学藻』塙書房	1982	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
小山登久	公家に日記の国語学における資料的価値	徳島大学教育学部 国語科研究会報 7	1982	
堀畑正臣	記録体資料に於ける「候気色」について(1) 「候気色」の読みについて	国語国文研究と教育 11	1982	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
中山緑朗	平安古記録の語彙 「酔」と「談」	学苑 506	1982	『平安・鎌倉時代古記録の語彙』東苑社 1995
中山緑朗	平安古記録の語彙 『小右記』における「時日」に関する語彙	学苑 512	1982	『平安・鎌倉時代古記録の語彙』東苑社 1995
今泉淑夫	記録語片々	国語展望 63	1983	
中山緑朗	平安古記録の慣用的語句 『小右記』を中心に	学苑 517	1983	『平安・鎌倉時代古記録の語彙』東苑社 1995
小山登久	「屈」と「窮屈」 平安時代の公家日記を中心に	語文 42	1983	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
小山登久	漢語二、三	徳島大学教育学部 国語科研究会報 8	1983	
清水教子	『御堂関白記』に見られる感情表現	中国短期大学紀要 14	1983	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
小山登久	一語多漢字表記について 助字を対象に	徳島大学教育学部 国語科研究会報 9	1984	『平安時代公家日記の国語学的研究』おうふう 1996
鈴木恵	「然而」をめぐる	『鎌倉時代語研究』6 武蔵野書院	1984	
堀畑正臣	平安時代の記録体資料に於ける「令(シム)」について	国語国文学研究 19	1984	
清水教子	『御堂関白記』の原因・理由を示す表現	中国短期大学紀要 15	1984	『平安中期記録語の研究』翰林書房 1993 『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
小山登久	「経営(けいめい)」という語について 公家日記を中心に	徳島大学教育学部 国語科研究会報 10	1985	
西田直敏	『伏見天皇宸記』の敬語表現	北海道大学文学部 紀要 33-3	1985	『「自敬表現」の歴史的研究』和泉書院 1995
清水教子	『小右記』に見られる感情表現	中国短期大学紀要 16	1985	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
峰岸明	『平安時代古記録の国語学的研究』	東京大学出版会	1986	
峰岸明	『変体漢文』	東京堂出版	1986	

堀畑正臣	記録体資料に於ける「候気色」について(2) 「御けしきたまはる」との関係	国語国文学研究 21	1986	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
中山緑朗	平安古記録の語彙 「物言い」に関して(1)	学苑 553	1986	『平安・鎌倉時代古記録の語彙』東苑社 1995
中山緑朗	平安古記録の語彙 「物言い」に関して(2)	学苑 554	1986	『平安・鎌倉時代古記録の語彙』東苑社 1995
中山緑朗	古記録の語彙に見る副詞 漢語副詞の登場	学苑 561	1986	『平安・鎌倉時代古記録の語彙』東苑社 1995
清水教子	『権記』に見られる感情表現	中国短期大学紀要 17	1986	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
中山緑朗	康富記の語彙 室町期語彙一斑	『近代語研究』7 武蔵野書院	1987	
遠藤好英	記録体におけるおける語彙 『後二条師通記』の夜に関する語について	訓点語と訓点資料 77	1987	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
佐藤進一	時宜(一)	『ことばの文化史 中世 1』平凡社	1988	
遠藤好英	記録の漢字	『漢字講座 6 中世の漢字とことば』明治書院	1988	
西田直敏	『後奈良天皇宸記』の敬語表現	甲南国文 35	1988	『「自敬表現」の歴史的研究』和泉書院 1995
鈴木恵	和化漢文の蓮文「皆悉(ミナコトゴトク)」について	新潟大学教育学部紀要(人文・社会科学編)30-1	1988	
堀畑正臣	『御堂関白記』(古写本)に於ける文章改変態度について 「大殿」と「某」の改変態度の差異について	尚綱大学研究紀要 11	1988	
清水教子	『権記』に見られる「時」の表現 1日(24時間)を中心として	中国短期大学紀要 19	1989	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
笠松宏至	募る、引き募る	『ことばの文化史 中世 2』平凡社	1989	
五味文彦	中間	『ことばの文化史 中世 4』平凡社	1989	
中山緑朗	『実隆公記』の語彙(一) 感情表現を中心に	学苑 598	1989	
渡辺直彦	記録語「鎮」について	日本歴史 488	1989	
清水教子	『権記』に見られる陳述副詞	中国短期大学紀要 20	1989	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
渡辺直彦	記録語「羨」管見	日本歴史 500	1990	
峰岸明	古記録と文体	『後期撰関時代史の研究』吉川弘文館	1990	
堀畑正臣	記録体(公家日記)に於ける「以(人)被(動詞)」(以テ～ラル)の文型について その用例集を兼ね、主語と動詞の特徴をさぐる	尚綱大学研究紀要 13	1990	
堀畑正臣	平安時代の公家日記における「因縁」につ	『国語語彙史研究』	1990	『古記録資料の国語学

	いて	11』和泉書院		的研究』清文堂 2007
遠藤好英	公用文としての記録体	日本語学 9-6	1990	
伊原信一	和製漢語「腹立」(クフリユウ)の語史 腹立から立腹へ	国語国文学研究 26	1990	
清水教子	『権記』に見られる接続詞	中国短期大学紀要 21	1990	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
中山緑朗	古記録語彙の研究(1) 鎌倉時代『民経記』に見る	学苑 615	1991	
堀畑正臣	「以～被～(モ[ッ]テ～ラル)の文型をめぐって	国語学 167	1991	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
堀畑正臣	『小右記』の文飾 用語・用字・語法からみた個性的な文体について	国語国文学研究 27	1991	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
堀畑正臣	平安時代の記録体に於ける「須(すべからく～べし)の用法に就いて	訓点語と訓点資料 87	1991	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
吉野政治	「為」「故」「為…故」とその訓漢字と訓との意味用法のずれについて	『国語文字史の研究』1 和泉書院	1992	
橋本博幸	平安古記録における「故障」「障(さはり)」の併用をめぐって	国語学研究 31	1992	
堀畑正臣	院政・鎌倉期の「(さ)せらる(使役+尊敬)について	国語国文研究と教育 27	1992	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
清水教子	『権記』に見られる原因・理由を示す接続語	中国短期大学紀要 22	1992	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
渡辺直彦	記録語管窺	儀礼文化 18	1993	
清水教子	『平安中期記録語の研究』	翰林書房	1993	
辛島美絵	「る・らる」の尊敬用法の発生と展開 古文書等の用例から	国語学 172	1993	
後藤英次	平安・鎌倉時代の記録体における並立の接続詞について 「オヨビ」と「ナラビニ」	国語学研究 32	1993	
堀畑正臣	「掌(アゲ)テ」と「掌(コソリ)テ」	訓点語と訓点資料 91	1993	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
張平	公家日記の漢語表現 「進退」「進止」を契機とする中日比較	二松 7	1993	
清水教子	『御堂関白記』に見られる「病気」「怪我」に関する表現	中国短期大学紀要 24	1993	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
清水教子	『小右記』に見られる「病気」「怪我」に関する表現	岡大國文論稿 21	1993	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
遠藤好英	漢語の意味・用法 「徒然」のわが国と中国での違いをめぐって	訓点語と訓点資料 90	1993	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
浅野敏彦	平安時代公家日記の漢字 『権記』寛弘七年一年間の漢字	『国語文字史の研究』2 和泉書院	1994	
峰岸明	『吾妻鏡』の言語に関する諸問題	『国語論究 5 中世語の研究』明治書院	1994	
堀畑正臣	古記録に見える「為当」をめぐって 「唐代口語」出自の語に着目して	筑紫語学研究 5	1994	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
西田直敏	『花園天皇宸記』の敬語表現	『国語論究第五集	1994	『「自敬表現」の歴史的研

		中世語の研究『明治書院』		和泉書院 1995
清水教子	『小右記』に見られる原因・理由を示す接続語	岡大國文論稿 22	1994	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
中山緑朗	『平安・鎌倉時代古記録の語彙』	東苑社	1995	
西田直敏	『「自敬表現」の歴史的研究』	和泉書院	1995	
船城俊太郎	「間」の遡源	国語国文 732	1995	
佐久間由佳	日本における天気表現 公家日記を中心に	日本文学ノート 30	1995	
堀畑正臣	「(さ)せらる」(使役+尊敬)の成立	訓点語と訓点資料 96	1995	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
堀畑正臣	古記録の使役助字をめぐって	筑紫語学研究 6	1995	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
清水教子	『小右記』に見られる「如(ごとし)」と「似(にたり)」	山陽論叢 2	1995	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
小山登久	『平安時代公家日記の国語学的研究』	おうふう	1996	
今泉淑夫	「電覽」について	日本歴史 576	1996	
清水教子	『小右記』に見られる「死生」に関する表現 語彙を中心に見た場合	山陽論叢 3	1996	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
穂田定樹	小右記の「覽」とその語彙	京都語文創刊号	1996	『古記録資料の敬語の研究』清文堂 2008
後藤英次	『吾妻鏡』における和製漢語	『日本語の歴史地理構造』明治書院	1997	
堀畑正臣	軍記物語と古文書・古記録出自の形式名詞「條(条)」	筑紫語学研究 8	1997	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
堀畑正臣	古文書・古記録の形容名詞「條(条)」をめぐって	国語国文学研究 32	1997	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
藤川功和	鎌倉時代公家日記に見られる「心事」について 『平戸記』と『民経記』の場合	古代中世国文学 10	1997	
原卓志	漢語「悉皆」の系譜	『鎌倉時代語研究』 20 武蔵野書院	1997	
清水教子	『小右記』に見られる「有職故実」を実証する表現	岡大國文論稿 25	1997	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』翰林書房 2005
橋本博幸	平安古記録における「発動」の表現性	『国語論究第7集』明治書院	1998	
穂田定樹	平安時代儀制書における「覽」	京都語文 3	1998	『古記録資料の敬語の研究』清文堂 2008
後藤英次	『小右記』『御堂関白記』における接頭語「相(アイ)」 記録体における接頭語「相(アイ)」(1)	『語彙・語法の新研究』明治書院	1999	
遠藤好英	平安時代の記録体の文章表現 上 「徒然」の意味・用法を中心に	日本文学ノート 34	1999	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006
遠藤好英	漢語「徒然」の語史 和化漢語の成立まで	文芸研究 147	1999	『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう 2006

船城俊太郎	「了(ヲハンヌ)」考 変体漢文 研究史に までおよぶ	新潟大学人文学部 人文科学研究 100	1999	
堀畑正臣	「因縁」追考	国語国文研究と教 育 37	1999	『古記録資料の国語学 的研究』清文堂 2007
堀畑正臣	被成(なさる)の系譜	訓点語と訓点資料 102	1999	『古記録資料の国語学 的研究』清文堂 2007
清水教子	『御堂関白記』に見られる「同」字の用法	清心語文創刊号	1999	『平安後期公卿日記の 日本語学的研究』翰林 書房 2005
堀畑正臣	『看聞御記』の記録語	『伏見宮文化圏の研 究 学芸の享受と 創造の場として』	2000	科学研究費補助金研究 成果報告書 研究代表 森正人(熊本大学)
堀畑正臣	『口語に浸透した古記録・古文書の語法研 究』		2000	科学研究費補助金研究 成果報告書 研究代表 堀畑正臣(熊本大学)
堀畑正臣	記録体(記録文)の漢文	日本語学 19-13	2000	『古記録資料の国語学 的研究』清文堂 2007
原卓志	古記録における「漸」と「漸漸」の意味・用法 について	『鎌倉時代語研究』 23 武蔵野書院	2000	
連仲友	明月記における「欲」字の用法について	『鎌倉時代語研究』 23 武蔵野書院	2000	
後藤英次	記録語としての助字の意義	『伝統と変容』ペリ かん社	2000	
清水教子	『権記』に見られる類義語・類義連語	ノートルダム清心 女子大学紀要 36	2001	『平安後期公卿日記の 日本語学的研究』翰林 書房 2005
堀畑正臣	被成(ナサル)の展開	『筑紫語文論叢』風 間書房	2001	『古記録資料の国語学 的研究』清文堂 2007
堀畑正臣	『明月記』に見える「記録語」(一)	明月記研究 6	2001	
清水教子	『小右記』に見られる批判文の語彙	ノートルダム清心 女子大学紀要 37	2002	『平安後期公卿日記の 日本語学的研究』翰林 書房 2005
清水教子	公卿日記に見られる語彙の一特徴 平安 後期の日記を中心として	清心語文 4	2002	『平安後期公卿日記の 日本語学的研究』翰林 書房 2005
峰岸明	古記録の文章における表記とその言語	国語と国文学	2003	
清水教子	『権記』に見られる副詞 情態副詞を中心 として	ノートルダム清心 女子大学紀要 38	2003	『平安後期公卿日記の 日本語学的研究』翰林 書房 2005
清水教子	副詞・接続詞から見た『権記』の位置 「異 なり語数」の観点を中心として	岡大國文論稿 31	2003	『平安後期公卿日記の 日本語学的研究』翰林 書房 2005
堀畑正臣	『明月記』に見える「記録語」(二)	明月記研究 8	2003	
堀畑正臣	『院政・鎌倉期古記録に於ける記録語・記 録語法の研究』	研究代表堀畑正臣	2003	科学研究費補助金研究 成果報告書
後藤英次	平安・鎌倉時代の公家日記における接頭語 「打(ウチ)」	国語学研究 43	2004	
遠藤好英	平安時代の公家日記のことばの文章史的 性格 「兼日」の語構造をめぐって	『日本語学の蓄積 と展望』明治書院	2004	『平安時代の記録語の 文体史的研究』おうふ う 2006

堀畑正臣	唐代口語・本朝漢詩文から平安古記録に流入した語をめぐって 登時・本自・奔波(奔営)・等閑の場合	『国語語彙史の研究』23 和泉書院	2004	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
原裕	院政期古記録における「令」について	『築島裕博士傘寿記念国語学論集』汲古書院	2005	
清水教子	『平安後期公卿日記の日本語学的研究』	翰林書房	2005	
堀畑正臣	室町時代に於ける「(さ)せらる」(尊敬)の検証	国語国文学研究 40	2005	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
遠藤好英	『平安時代の記録語の文体史的研究』	おうふう	2006	
桜井英治	歴史学者の国語(日本語)学 室町時代の古記録を読む	『史料学入門』岩波書店	2006	
堀畑正臣	(サ)セラル(尊敬)の成立をめぐって	『筑紫語文論叢 2』風間書房	2006	『古記録資料の国語学的研究』清文堂 2007
高橋秀樹	足をあげて待つべし	日本歴史 704	2007	
尾上陽介	記録語「二音」	日本歴史 704	2007	
樋渡登	古記録と同義語 副詞「総じて」「総別」から	日本歴史 704	2007	
堀畑正臣	『古記録資料の国語学的研究』	清文堂	2007	
穂田定樹	『古記録資料の敬語の研究』	清文堂	2008	
後藤英次	『吾妻鏡』の漢語と公家日記の漢語 古記録資料対照漢語(漢字語)表作成の試み	中京大学文学部紀要 44-1	2009	
辛島美絵	「気色」と「仰(旨)」 古記録・古文書等に見る けしき の用法と展開	『古典語研究の焦点』武蔵野書院)	2010	
原裕	再読字使用の問題 「未」の場合	『古典語研究の焦点』武蔵野書院)	2010	